

吾妻中央高等学校 学校評価一覧表① (令和3年度版)

(様式1)

羅針盤			方 策		第1回 点検・評価		第2回 点検・評価		
評価対象	評価項目	具体的数値項目			自己評価 外部アンケート等	改善策	自己評価 外部アンケート等	改善策	
I 特色ある学校づくりに努めていますか。	1 特色ある教育活動を行っていますか。	① 一連の学習活動(課題設定・調査研究・まとめ・発表等)に、主体的に取り組んだと自己評価している生徒が80%以上である。	① 「課題研究」「総合的な学習(探究)の時間」「キャリア教育」等を通して、自らの在り方を意識させながら課題解決に取り組ませ、将来にわたり課題を発見し解決していく能力を養う。	B	A	昨年度に引き続き、「課題研究」「総合的な学習(探究)の時間」とも、主体的に取り組んでいる生徒はいずれの学年・学科においても80%を超えており、課題設定・解決の学習が実践されていると考えられる。一方、学校生活に対して課題意識を持っている生徒は、2年が30%程度に対し、3年63%となった。3年生が高い結果となっている理由を探り、主体的に取り組む生徒の育成に努めたい。	A	A	前回は引き続き「課題研究」「総合的な学習(探究)の時間」とも、主体的に取り組んでいる生徒はいずれの学年・学科においても80%を超えており、課題設定・解決の学習が実践されていると考えられる。一方、学校生活に対して課題意識を持っている生徒は2年が61%とやや高く、1、3年は56%となった。前回の調査で低かった2年生が向上した数値の原因を探り、今後に生かしていきたい。
		② 本校の教育活動にやりがいを感じている生徒の割合は、80%以上である。	② 本校を志望した理由や生徒の課題意識を的確に把握し、きめ細かな指導を行う。また、生徒がコロナ禍においても学校生活で感じる満足感の過不足を明確にし、学校行事や授業等でも主体的な取り組みとなるように内容を工夫し、充実した教育活動を行う。	C	C	本校の教育活動にやりがいを感じる生徒の割合は、1年72%、2年60%、3年58%となり、昨年度と同様結果となっている。現時点での本校の教育活動は、昨年度に引き続き新型コロナウイルス感染症対策による制限もあり、今までの教育活動を知る2、3年生にとっては物足りないと感じられているのではないかと考えられる。コロナ禍であっても満足感が得られる教育活動に今後もチャレンジしていきたい。	C	C	今回の調査で本校の教育活動にやりがいを感じる生徒の割合は、1年70%、2年69%、3年52%となっている。昨年の同時期と大きく変化はなく、コロナ禍の教育活動の難しさを実感している。やりがいを感じていても、そのように思えない実態がある可能性もある。コロナ禍の学校行事を見直すとともに、満足感が得られるような働きかけも考えながら、来年度に向けて検討していきたい。
		③ 普通科では、基礎学力向上のため、各種資格検定等の受検を積極的に呼びかけ、漢検および英検それぞれ2級合格者10名、準2級合格者20名以上を目標とする。	③ 社会に出ても有用な資格であることや、教科の実力を向上させる上で有効であることを授業等で紹介する。また合格に向けた指導を充実させ、粘り強く取り組む態度を育む。	C	C	漢検では2級：2人、準2級：4人の計6人。英検では2級：2人、準2級：4人の計6人である。漢検は3学期で1年生に全員受験を行うので合格者が増えるように課題等に対応する。また、英検については、あと2回の受検の機会があるので受験者数が増えるように教科から声をかけてもらう。	C	C	前回の調査から、英検で準2級が6人が追加された状況である。漢検では1年生が3学期で全員受験したため、その結果を待っている。比較的に学年が上がるにつれて各資格試験ともに受験希望者が増加する傾向にあるので、来年度以降は1年次の受験人数を増やす工夫をしていく。
2 資格取得に積極的に取り組んでいますか。	④ 生物生産科では、年間1つ以上の資格の取得を目指し、卒業までに3つ以上の資格を取得することを目標とする。	④ 普通科では、基礎学力向上のため、各種資格検定等の受検を積極的に呼びかけ、漢検および英検それぞれ2級合格者10名、準2級合格者20名以上を目標とする。	④ 資格取得が進路の選択や実現につながることを理解させるだけではなく、担任や教科担当などと連携して動機づけに努め、資格取得の指導に取り組む。また、学科に関わる資格だけでなく、他の資格取得についても積極的に取得できるように指導する。	C	C	2・3年生については、これまでの様々な資格取得を受験してきたが、3年生では40%、2年生では18%となっている。しかし、1年生は1%のみであったため、今後、資格取得の機会を設けて、積極的に取り組めるようにしていきたい。	B	B	第2回アンケート調査では、3つ以上資格取得をしている生徒が3年生では86.1%、2年生では66.1%出ていることから、多くの生徒が達成できたと考えられる。しかし、1年生では0%であったため、今後は早期から資格取得をさせていきたい。また、2・3年生でも達成できていない生徒もいるため、達成できるように指導していきたい。
		⑤ 環境工学科では、1年生は年度内に資格を2つ以上取得する。2年生は年度内に資格を2つ以上取得し、学年で測量士補と2級土木施工管理技術検定の合格率をそれぞれ5%とする。3年生は測量士の合格者を1名以上とし、測量士補と2級土木施工管理技術検定の両方を保有している者の割合を50%以上とする。	⑤ 測量国家試験と2級土木施工管理技術検定の取得の意義を理解させ、主体的に資格試験に挑戦するよう指導する。また普段の授業の質を向上させ実践的な内容とするよう学科内で意識を統一する。対策補習については、教育支援アプリケーションを活用するなど、計画的且つ効率的に実施する。	C	C	6月に行われた2年生の2級土木施工管理技術検定の合格率は63%であった。9月に行われた測量士補国家試験の試験対策は、感染症対策のため夏休み中からclassroomを用いた支援を毎日行った。パソコン端末を用いた課題配信の場合、生徒自身の意欲に片寄りが見られるため、その工夫が必要である。	C	C	1年生は計算技術検定(2級～4級)に挑戦し76%の生徒が合格した。2月に建築CAD検定を3名受験するが、2つ以上の資格取得率が10%である。2年生は6月と10月に2級土木施工管理技術検定を受験し、その取得率は80%となった。9月に行われた測量士補国家試験は5名合格し、その取得率は12%である。3年生の2級土木施工管理技術検定の取得率は75%であるが、測量士補の取得率は10%である。
		⑥ 福祉科では、介護福祉士国家試験の合格率90%以上を目標とする。	⑥ クラッシャーを活用して毎日課題を継続的にを行い、基礎知識の定着を図る。1学期から放課後補習を開始するとともに、長期休業中の補習を計画的に実施する。また、定期的に模試や個別面談を行い、個に応じた指導を行う。	C	C	クラッシャーでの毎日課題を配信しているが、解答していない生徒もいるので、毎日課題を行うように指導していきたい。また、模試の結果が低い生徒には個別指導を行い、知識の定着を図れるようにしていきたい。	C	C	クラッシャーによる毎日課題の実施や放課後補習の実施により、生徒の学習習慣の定着を図ることができた。12月に実施した模擬試験では多くの生徒が昨年の合格点を超えることができた。
3 地域の小・中学校や企業・団体と連携していますか。	⑦ 学科の特長を活かした体験実習、地域等との連携・交流活動について、感染症対策に留意して実施する。	⑦ 学科の特長を活かした体験実習、地域等との連携・交流活動について、感染症対策に留意して実施する。	⑦ 活動を精選しながら、生徒の知識・技術の深化、コミュニケーション能力の向上が図られるよう事前準備、事後指導等を積極的に行っていく。	C	C	今年度も、緊急事態宣言の発出等により、様々な交流活動が制限されてきた。学科によっては国家資格取得に向けた取り組みが実施できなかったり、インターンシップが取りやめになったりとし、学科の特性を生かした取り組みが為されていない状況である。今後については状況を見極めながら出来る範囲で取り組めるよう準備していきたい。	B	C	学校外の方とのやり取りであり、感染症蔓延状況等を鑑みながら可能な範囲でことしかできない現状ではあったが、2学期中盤からは制約がありつつも様々な交流活動を行うことができ、関係団体との連携活動なども実施することができたが、学科によってはその特性から自粛せざるを得ない部分もあり残念であった。
		⑧ 各学科における生徒の実態を踏まえて、到達度を見通すことのできる学習指導を実施し、学習に対する達成感・満足感をもっている生徒が65%以上である。	⑧ 生徒の実態に応じた授業展開・クラス編成をさらに工夫し、生徒一人一人に各教科・科目の基礎・基本を身につけさせる。資格取得・検定や進学に対応した補習も、放課後や長期休業等を利用して充実させる。	B	B	本校の生徒で、学校での学習に対し、達成感・満足感を持っている者は、65.3%であった。昨年度(63.6%)よりやや上昇傾向にある。コロナ感染症対策を考慮しながら、各教科で授業展開を工夫し、個々の目標や資格試験・検定などの取得にさらに意欲的に取り組めるよう指導していきたい。	C	C	本校の生徒で、学校での学習に対し、達成感・満足感を持っている者は、63.6%であった。1回目よりもやや下降傾向にある。引き続きコロナ感染症対策を考慮しながら、各教科で授業展開を工夫し、個々の目標や資格試験・検定などの取得に意欲的に取り組めるよう指導していきたい。
		⑨ 生徒は確かな学力を身に付けていますか。	⑨ 単位未習得者の割合は、全体の3%以下である。	B	B	1学期終了時点で、成績不振者(1学期の成績で「1」がついた者)が3.4%だったが、夏休み中の追試や補習などの指導で、1.6%まで減った。今後も単位未修得者をなくすよう指導していきたい。	B	B	2学期終了時点で、成績不振者(2学期の成績で「1」がついた者)が3.1%だったが、冬休み中の追試や補習などの指導で、1%にまで減った。今後も単位未習得者をなくすよう指導していきたい。
II 生徒の意欲的な学習活動について適切な指導をしていますか。	4 生徒の実態に応じた指導を行っていますか。	⑩ 自死、いじめ・問題行動の未然防止に努める。いじめに関しては、解消率を高めるようにする。	⑩ 生徒観察を常に行い、定期的に注意喚起を行う。また、講習会等を行い先生方の意識の向上を高める。発生後も生徒・保護者のケアに努める。	B	B	コロナの関係で分散登校等が続き人間関係にも変化が見えてきているところもある。一斉登校になり人間関係が悩みを抱える生徒も多くなっていると思うので注意していきたい。多くの先生方の協力により、様子の気になる生徒に関しては早い段階で声かけやスクールカウンセラーに繋ぐことができ、教師間での対応もできている。情報共有もしっかりと行われている。また、保護者との情報共有も行っている。	B	B	一斉登校になり人間関係が悩みを抱える生徒や家庭内の問題に悩んでいた生徒もできた。相談窓口等に周知は行っているが、なかなか自ら相談をする生徒の割合が少いように感じる。また、自ら言いたる生徒も少なくこちらからの問いかけに答える場面が多いうように感じる。先生方の生徒観察のお陰で早期発見できている場面が多々見られる。今後は、生徒が相談窓口等に自ら相談しやすい環境を考慮して対応していきたい。
		⑪ マナーアップや校門指導時に生徒会を中心に活動を行う。アンケートを定期的に行う。また、二者面談や三者面談を積極的に行う。	⑪ マナーアップや校門指導時に生徒会を中心に活動を行う。アンケートを定期的に行う。また、二者面談や三者面談を積極的に行う。	C	C	コロナの関係で生徒会や生徒中心の活動が行えていないが、生徒会新聞等の発行に向けて活動を行っている。また、SNSに關する講演会をwebで行い、生徒の意識も高まっているように感じる。コロナの様子を見ながら今後の活動の検討を行い、できるだけ生徒からの情報発信ができるように努めしていきたい。二者面談や三者面談は先生方の協力により計画的に行っている。	B	B	生徒の活動が許される範囲内でも校門等に立ち活動を行った。また、長期休業前には警察の方の協力により注意喚起を行ったり全校集会等で話を行ってきた。また、アンケートを活用し心配な生徒に声をかけ事実の確認や様子うかがい対応を行ってきた。多くの先生方のお陰でいじめの予防を行うことができている。減少のペースが速い。
		⑫ 生徒は健康で、規則正しい学校生活を送っていますか。	⑫ 専門機関のネット依存チェックリスト等を活用し、利用時間の短縮などを意識させる。生徒会と連携しスマホ等の使い方のルールを啓発する。新型コロナウイルスの影響下でも、保健だより等で健康管理についての情報を発信したり、保護者と連携して再受診を促す個別面談を実施したりする。	B	B	自宅での授業参加や課題や検温結果送信等、生徒の生活の大部分をネットの活用が占めている。本校には使用に関する詳細な注意を促しているが、生徒自身に任せている部分も多く、管理が難しい状況である。感染対策として、基本的な生活での免疫力向上として、朝食の摂取や手洗いの励行、再検査の完了については概ねよくできている。さらに呼びかけ、感染防止への意識を向上させていきたい。	C	C	授業内容の定着を目的とした家庭学習課題がパソコン等の使用時間の一部を占めていることも予想される中、利用時間は22%の減少が見られた。今後は、家庭での利用ルール作りについては促していきたい。また、基本的な生活習慣や健康管理については概ね達成できた。コロナ禍が続く中、免疫向上のために定期的に保健便りや生徒保健委員会が中心となって継続的に情報を発信していきたい。
III 生徒の充実した学校生活について適切な指導をしていますか。	6 組織的・継続的な指導を行っていますか。	⑬ 各種検査の実施や進路ガイダンス等とおして職業適性や上級学校についての理解を深めさせる。インターンシップ、オンライン見学会等を体験させ自らの進路設計について深く考えさせる。	⑬ 各種検査の実施や進路ガイダンス等とおして職業適性や上級学校についての理解を深めさせる。インターンシップ、オンライン見学会等を体験させ自らの進路設計について深く考えさせる。	B	B	コロナや台風のため、インターンシップは一部生徒のみとなった。オンラインでの見学会も多かったが、実際に現地体験することの方がより進路学習には効果があると思われる。学校内でも進路ガイダンス等で意識向上を図っているが、2、3年生のオープンキャンパスへの参加も多かった。実際に自分の目で見る必要がある。進路に関する情報をより効率的に伝えていきたい。	B	B	9月は分散登校で当初予定に遅れたが、通常登校後は進路に関する行事に関しては実施できた。今はオープンキャンパス等がオンラインでも行われる機会が増えているので、その機会をうまく利用しながら、自分の目で確認できるようになっていくだろう。進路に関する情報をしっかりと伝えるとともに、クロームブックの進路学習活用を進めていきたい。
		⑭ ポートフォリオの作成やフォーサイト手帳を活用している生徒が80%以上である。	⑭ ポートフォリオの取り組みやフォーサイト手帳を使った振り返り等とおして学習活動全般への充実感を高める。	C	C	ポートフォリオとは何かが生徒に浸透していない可能性や使い方について理解していない可能性が高い。フォーサイト手帳は以前は使い方の指導があったが、コロナ禍のため十分な指導ができていないと思われる。また、クロームブックの導入により連絡が電子媒体で行われるようになった影響も少なくないだろう。クロームブックをこれらの代替にすることも検討していく必要がある。	C	C	ポートフォリオの活用は科やクラスによって活用に差があると思う。フォーサイト手帳は生徒個人間の活用に差があると思う。手帳の有無については職員でも議論のあるところである。進路学習に役立つよう利用方法を検討する必要がある。個人情報扱いについては慎重に取り扱わなくてはならない。
		⑮ 「学校の様子がよく分かる」と評価する保護者が80%となるよう、日頃の学校行事、各科の情報発信を行う。	⑮ HPを通じて学校の様子を発信するとともに、Youtubeの活用や情報配信のデジタル化を行う。	C	C	コロナのため中止や実施方法が変わった中学生向けの行事においては、学校紹介等の動画を作成し広報することができた。在校生向けの広報については新型コロナウイルスや災害発生時の緊急連絡が主となり、今後はすこしづつ授業の様子や学校行事などについても動画で広報していきたい。	C	C	在校生・保護者向けの広報については新型コロナウイルスや災害発生時の緊急連絡が主となり、アンケートにおいても学校の様子がよくわかると答えた保護者は半数にとどまっていた。半数の保護者・生徒は定期的にHPを見る習慣がないことが考えられるため、今後は保護者が定期的にHPを確認するよう仕組みや情報の発信を工夫していきたい。
VI 教育のデジタル化に努めていますか。	12 ICTを活用した指導を行っていますか。	⑯ LMS(スタディアサプリやClassroom)を利用した授業や課題の発出を行っている教諭が60%以上である。LMSを利用した教諭の50%以上が評価に結びつけている。	⑯ 講習会を実施するとともに、行った事例を共有し職員間で連携して推進できる環境を整える。	C	C	多くの先生がClassroomを活用して課題の発出や授業の連絡を行うようになった。今後はこれらを評価につなげられるようにしたい。	C	C	ほとんどの職員が新型コロナウイルスへの対応によりClassroomを活用して課題の発出や授業の連絡を行えるようになった。事例を共有していると答えた職員は60%を超えており、今後はこれらを定着させ通常時の授業にも活用してもらえよう環境を整えたい。
		⑰ 職員用ポータルサイトの活用により、校務にICTを活用できる環境を整えるとともに、積極的な活用に向けた働きかけに取り組む。	⑰ 職員用ポータルサイトの活用により、校務にICTを活用できる環境を整えるとともに、積極的な活用に向けた働きかけに取り組む。	C	C	生徒アンケートのみの結果を見る限りでは、6割程度の生徒が職員ICTの活用を評価しているように見受けられる。今年度導入した内容もたくさんあるため、内容を精査し、効果的なICTの活用をさらに模索していきたい。	C	C	職員アンケートの結果を見る限りでは、「十分に達成できた」が22%、「達成できた」が44%にとどまり、職員ポータルサイトの活用による業務改善は、道半ばであることが伺える。職員がICTの活用に向けて主体的に取り組むことができるよう、習慣化に向けた取り組みを模索していきたい。